

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2023 年度 第 4 回 学生交流委員会
議事次第

日 時：2023 年 11 月 28 日（火）13:00～14:30

開催場所：オンライン（Zoom）

委 員 校：神戸常盤大学（委員長校）、神戸学院大学（副委員長校）

芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学
甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸市看護大学
神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学
神戸親和大学、神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部、姫路大学、姫路獨協大学、兵庫大学
兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学

計 27 校

I. 協議事項

1. 2023 年度学生交流委員会事業自己評価について (資料 1)
2. その他

II. 報告事項

2023 年度事業の進捗状況について (資料 2)

1. 大学コンソーシアムひょうご神戸×大阪・関西万博 2025 機運醸成フォーラム（仮）
2. その他

III. 懇談事項

1. 大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について (資料 3)
2. その他

IV. 連絡・調整事項

1. 2023 年度の学生交流委員会開催予定と主な議題について
第 5 回委員会 2 月：2024 年度 事業計画・予算（案）
第 6 回委員会 3 月：2023 年度 事業報告・決算（案）
2. その他

以上

<資料一覧>

資料 1 : 2023 年度 学生交流委員会事業 自己評価（案）

資料 2-1 : 大学コンソーシアムひょうご神戸×大阪・関西万博 2025 機運醸成フォーラム（仮題）

資料 2-2 : ひょうごフィールドパビリオン SDGs 体験型地域プログラム（参考例）

資料 3 : 大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について

【2023年度 学生交流委員会 自己評価】(案)

委員長校 : 神戸常盤大学

副委員長校: 神戸学院大学

委員校: 芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路大学、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学 計27校

<目的>

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。

取組課題③「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」

・年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。

上記取組を推進する体制の構築並びに、必要なプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

<内容>

取組課題③に対する「個別取組」は、下記の通り。

【取組1】テーマ型の学生交流プロジェクトの実施

他大学や地域・企業との連携・協働によるプログラムへの参加は、学生に大きな教育効果があるとの考えから、大学の枠を超えたテーマを設定した学生交流や活動を促進するプロジェクト全体を「WILL BEプロジェクト」の総称で位置付け、実施する(例: 地元企業・団体等と連携した取組など)。主体性をもって活動に取り組む学生を支援する仕組みを作ることによって学生の成長の場とする。

【取組2】加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施

加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報では、コンソHPへの記事掲載を計画・実施する。掲載文等を考えることで自主性や文章構成力を高めることを目的とする。地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化のための貢献活動に取り組む。併せてコンソの認知度を高める

また事業の実施体制として、ユニット制での実施を継続して実施する。上記2事業に基づく2ユニットの

いずれにも全委員校が参加し、ユニットごとに企画立案から多くの加盟校が主体的に参画することにより、学生交流の実質化に繋げる。

<期待される効果>

他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果は以下の通り。

【取組1】学生が地域・企業との連携・協働を通じた様々な社会貢献活動に、地元企業や自大学以外の学生と一緒に参加することで地域の魅力、または課題を直に感じ、理解を深め、そして解決策を自発的に考える効果が期待できる。

【取組2】参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文章構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。

上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。

課題③ 大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		予算額
取組1	WILL BEプロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」	1,010,000円
取組2-1	学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」	240,000円
取組2-2	学生発信ブランディング 「大学間連携組織を活用した県民向け防災施策PR動画作成業務」	1,000,000円 * 受託事業収入

【2023年度 学生交流委員会 自己評価(③取組1-1)】

【③取組1】達成目標	各年参加者数50名以上		
【③取組1】活動指標	参加加盟校数10校以上/年		
課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		
達成目標 【③取組1-1】	参加学生数30名以上		
課題を解決する 取組概要 【③取組1-1】	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 〈WILL BE プロジェクト〉②地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動		
活動指標 【③取組1-1】	参加団体5団体以上。個人参加15名以上。		
内容 (結果)	◆「地域子育て支援拠点」や「こどもの居場所」でのボランティア活動 ＜内容＞ 加盟校が連携して、学生がボランティア活動や地域貢献活動に参加しやすい場、そして学習成果を発表出来る場を提供する。自学のプログラムやフィールドを加盟校の他大学の学生にも開放し、学生間の交流を促進する。 【開放施設】 ①ときわんモトロク(中央区・元町六丁目商店街)、 ②ときわんノエスタ・てらこやノエスタ(兵庫区・ノエビアスタジアム神戸)、 ③ときわんクニヅカ・てらこや(長田区・アスタくにつか4番館) ④あかしフリースペース トロッコ(兵庫県明石市天文町1-4-12) ※①～③は、神戸常盤大学が設置する「子育て支援センター」施設。 ※④は、明石市が設置、「B&G財団」が支援する「子ども第3の居場所」施設。 ※加盟校で拠点を開放いただける大学があれば、随時活動場所を追加し、学生に周知する。 ＜開催時期＞2023年5月下旬～2024年3月(予定) ＜募集対象＞加盟校学生 ※団体・個人問わず 【結果(現状報告)】 ＜開催時期＞2023年5月～11月10日現在 ＜申込・参加学生数＞申込者25名、参加者6校・9名(内訳①②③:関西学院大学(1)、神戸学院大学(1)、神戸市看護大学(1)、神戸女子大学(3)、兵庫県立大学(1)、④子どもの第3の場所:兵庫県立大学(2))		
新しい試み等 (事業計画に記載)	本事業を2023年10月より、公益財団法人日本財団ボランティアセンターとの協働事業として上限40万円の助成を得て学生がボランティア活動を継続的に従事できる環境を整えた。また、新たに明石市が不登校児支援のために設置する子どもの居場所「あかしフリースペース トロッコ」でのボランティア活動を公益財団法人B&G財団との連携で開始し、地域で学生が活動できる拠点を拡充できた。		
事業収支		支出	収支
	1,010,000円	67,745円	942,255円 ※取組1-1、1-2の合計、10月31日現在
自己評価	【対到達目標】	2	【対継続性】
	前期(5月～9月)において20人以上の申し込みがあり、地域でのボランティア活動に対する学生のニーズは一定数あったといえる。ボランティアが初めての学生も、第一歩を踏み出す場となっている。また、一回限りではなく、複数回継続的に参加する学生が増加傾向にある。 定期的な発信(公募)をすることで、参加者の増加は期待できるため、本プログラムは継続しても良いと考える。		
■自己評価基準 (対到達目標) 4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	■自己評価基準 (対継続性) 4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき		
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)			

【2023年度 学生交流委員会 自己評価(③取組1-2)】

【③取組1】達成目標	各年参加者数50名以上			
【③取組1】活動指標	参加加盟校数10校以上/年			
課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組1-2】	参加学生数10名以上			
課題を解決する 取組概要 【③取組1-2】	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 ＜WILL BE プロジェクト＞③「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 (正式名:ナガセケムテックスプレゼンツ 「ヴィクトリーナ姫路・大学コンソーシアムひょうご神戸 スポーツビジネスコンテスト」)			
活動指標 【③取組1-2】	参加学生のチーム活動/月1回以上(活動期間中)			
内容 (結果)	◆「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 地域の活性化に資する人材育成のためのプログラムとして、地域スポーツ振興をテーマに企画実施する。 ＜内容＞ バレーボールVリーグに所属する「ヴィクトリーナ姫路」が抱える事業課題について、ゼミ単位もしくは大学の垣根を越えて構成した学生プロジェクトチームで、課題解決につながる企画を立案。ヴィクトリーナ姫路へのプレゼンテーションを経て、その企画を学生が主体となってホームゲームで実施し、その効果を検証する。 学生にとっては、大学講義等で学んだことを実践する機会となり、深みのある学びが期待できる。 また、本事業を通じて、社会人として求められるスキルであるマーケティング思考やプロジェクトマネジメントを習得するきっかけとする。 ＜活動期間＞2023年8月～2024年1月 ・2023年8月5日(土):オリエンテーション(会場:神戸学院大学 神戸三宮サテライト) ・2023年8月6日(日)～10月6日(金):企画実施準備(チームごとに活動) ・2023年10月7日(土):企画プレゼン大会(会場:イーグレ姫路) ・2023年10月14日(土):学生チームの企画に対して実践に向けての課題提案(オンライン) ・2023年10月～11月:企画実施準備(オンラインワークショップ計6回開催) ・2023年10月28日(土):現地視察(会場:たつの市立龍野体育館) ・2023年12月23日(土)・24日(日):企画実地(会場:ヴィクトリーナウイング体育館) ・2024年1月13日(土):結果発表・表彰式 【結果(現状報告)】 ＜応募・参加状況＞10校47名 関西福祉大学(5)・関西学院大学(2)・関西国際大学(1)・甲南大学(1)・神戸大学(1)・神戸学院大学(12)・神戸親和大学(7)・兵庫大学(1)・兵庫県立大学(5)・流通科学大学(12)			
新しい試み等 (事業計画に記載)	活動期間中、ビジネスコンテストを実施するだけでなく、学生運営スタッフによる、学生同士の交流が促進する取り組みを実施。			
事業収支	収入	支出	収支	備考
	1,010,000円	67,745円	942,255円	※取組1-1、1-2の合計、10月31日現在
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	4
	2年目を迎えるプロジェクトとして、課題提供をいただく企業様(ヴィクトリーナ姫路)には、学生の企画プランの審査に加えて、企画・立案の段階から、学生に実践的な助言をいただく仕組みを構築するなど、連携体制の充実を図りながら、事業運営ができています。2023年現在、本プログラムは計画通り進めることができている。継続すべきと考える。			
■自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った		■自己評価基準 (対継続性)	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)				

【2023年度 学生交流委員会 自己評価(③取組2-1)】

【③取組2】達成目標	情報公開数200取組以上			
【③取組2】活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年			
課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組2-1】	情報公開数200取組以上			
課題を解決する 取組概要 【③取組2-1】	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施			
活動指標 【③取組2-1】	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年			
内容 (結果)	◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開する。また必要に応じて、様々なメディア等への告知を検討・計画する。 <内容> 加盟校からの情報提供をもとに、地域で若者が活躍する姿を周知することにより、加盟校による地域の活性化のための貢献活動に取り組む。 【結果(現状報告)】 ◎大学コンソーシアムひょうご神戸HP上の「note」記事「地域で輝く学生」に5取組掲載。			
新しい試み等 (事業計画に記載)				
事業収支	収入	支出	収支	備考
	240,000円	16,700円	223,300円	10月31日現在
自己評価	【対到達目標】	2	【対継続性】	3
	学生の地域活動は、活動内容が多様であるがゆえに、加盟校担当者によっては情報の取捨選択が難しい場合がある。しかし、地域人材として加盟校学生が重要な役割を果たしていることを広く社会に広報する活動は、人材育成の観点でも重要であるため、情報提供しやすいテーマや情報提供の仕組み等を工夫することで、本プログラムは継続しても良いと考える。			
■自己評価基準 (対到達目標)	■自己評価基準 (対継続性) 4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき			
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)				

【2023年度 学生交流委員会 自己評価(③取組2-2)】

【③取組2】達成目標	情報公開数200取組以上			
【③取組2】活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年			
課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組2-2】	参加加盟校数10校以上/年			
課題を解決する 取組概要 【③取組2-2】	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施 学生発信ブランディング 「大学間連携組織を活用した県民向け防災施策PR動画作成業務」			
活動指標 【③取組2-2】	参加団体1団体以上。個人参加20名以上。			
内容 (結果)	◆県民向け防災施策PR動画作成(受託業務) 近年頻発する豪雨災害などの自然災害や、今後発生すると言われている南海トラフ地震への対策や備えについて、学生たちが正しい認識を持つことが、自分や家族、友人の命を守り、被害の軽減につながる。兵庫県においては、災害時に誰一人取り残さない各種施策を展開しており、今後もより一層の充実を図る必要がある。また、防災に対して難しい印象を持つ若者や学生が近年の災害や兵庫県の防災施策について研究し、みんなが助け合う意識づくりや防災リテラシー向上に繋がるような、学生目線のわかりやすい防災施策PR動画を作成する。 ※主に県庁見学や研修等で来庁の一般県民を対象とし、防災イベント等での上映も想定 内容: ①(災害や防災施策の現状について、学生・関係者等へ)ヒアリング調査、企画。 ②シナリオ作成(絵コンテ、ロケハン含む)。 ③動画撮影(出演含む)。 ④編集作業(ナレーション等含む)。 ※ 県庁見学は小学生以上対象のため、小学生から大人まで理解できる内容とすること 兵庫県の防災に関する事業や取り組み内容を含むこと 県内大学生の防災活動調査に内容も含むこと 【スケジュール】 5～6月 :学生募集、調査、企画 6～7月 :シナリオ、絵コンテ作成 7～9月 :ロケハン、撮影 9～11月:編集 12月 :成果物納品 【結果(現状報告)】>7校18名 関西国際大学(10)、関西学院大学(1)、神戸学院大学(1)、神戸市看護大学(2)、神戸女学院大学(1)、神戸常盤大学(1)、兵庫県立大学(2)			
新しい試み等 (事業計画に記載)	今年度、兵庫県より初めて業務委託された新しい試みである。			
事業収支	収入	支出	収支	備考
	1,000,000円	239,194円	760,806円	10月31日現在
自己評価	【対到達目標】	2	【対継続性】	3
	学生目線のわかりやすい防災施策PR動画を作成すべく、約半年間の活動期間中、学生たちは災害を自分事として考える経験を積み重ねた。阪神・淡路大震災や防災について学び、ミーティングを重ねながら、学生自身が動画コンセプト・脚本・動画出演を行うなど、12月末の完成に向けて、本プログラムは予定通り、進めることができています。なお、本プログラムは、兵庫県からの単年度の委託業務のため継続はない。			
■自己評価基準 (対到達目標) 4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った ■自己評価基準 (対継続性) 4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき				
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)				

大学コンソーシアムひょうご神戸×大阪・関西万博 2025 機運醸成フォーラム（仮）

【開催概要案】

●開催概要

タイトル： 大学コンソーシアムひょうご神戸×大阪・関西万博 2025 機運醸成フォーラム（仮名）

共 催： 大学コンソーシアムひょうご神戸、兵庫県立兵庫津ミュージアム

後 援： 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会（予定）

協 力： 兵庫県企画部万博推進局、公益社団法人ひょうご観光本部（予定）
一般社団法人ツーリストシップ

日 程： 2023 年 12 月 10 日(日)13 時～16 時※予定

場 所： 兵庫県立兵庫津ミュージアム研修室

対 象： 加盟校教職員・学生・一般（本テーマに関心のある人）

参加費： 無料

【第一部】13:00～14:30

◇シンポジウム

①万博って何？～大阪・関西万博 2025 の開催に向けて～（仮）

講師： ※日本国際博覧会協会講師

②ひょうごフィールドパビリオンの展開について（仮）

講師： 兵庫県企画部万博推進局 三宅隆之局長（予定）

③観光立国・日本が目指すべきツーリストシップ溢れる旅行の提言（仮）

講師： 田中千恵子(一般社団法人ツーリストシップ代表理事)

【第二部】14:45～16:00

◇パネルディスカッション

テーマ:万博開催の波及効果としての地域活性化

コーディネーター:田中千恵子(一般社団法人ツーリストシップ代表理事)

パネリスト: ※日本国際博覧会協会へ講師派遣要請

兵庫県企画部万博推進局 三宅隆之局長

※SDGs 体験型地域プログラム提供事業者数名

<"兵庫の魅力"Student Treasure Hunt Project 参画学生募集>

募集： 大学コンソーシアムひょうご神戸に所属する各大学・高専の学生（最大 30 名程度）

内容： ①「ひょうごフィールドパビリオン SDGs 体験型地域プログラム」モニター体験

↳ひょうごフィールドパビリオン構想についての事前学習にて理解を深める

✓旅行者が旅行先を訪れる際の心構えとしてのツーリストシップについて学ぶ

✓実際に体験する「SDGs 体験型地域プログラム」の選定

- ✓ 選定された「SDGs 体験型地域プログラム」へのモニター体験
- ✓ 体験後の事後レポート作成～グループ内で各自のレポートをシェアし、グループの代表レポート作成
- ✓ 全体での体験レポート報告会を開催

(以降は予告案内)

② “兵庫の魅力”発信映像の企画・制作

- ↳ ✓ 動画制作の基礎についての講習会
 - ✓ 事前学習のための動画作品制作～適宜評価
 - ✓ 「SDGs 体験型地域プログラム」参加時の動画・写真撮影
 - ✓ 参加したプログラム及びその土地の魅力発信動画の制作
 - ✓ 完成した動画のお披露目（兵庫県内のリアルサイネージ、各種 WEB 媒体等）

③ ツーリストシップから見る兵庫県の課題解決プラン・プレゼンテーション

- ↳ ✓ 「SDGs 体験型地域プログラム」参加から見えたプログラム・地域の課題を抽出・分析
 - ✓ 課題解決のためのプラン案をグループ内でディスカッション
 - ✓ 企画プランニング及びプレゼンテーション資料作成の基礎演習
 - ✓ グループで出た企画案をまとめ、企画書を作成
 - ✓ 体験プログラム実施事業者や自治体関係者などへプレゼンテーション

④ 兵庫津ミュージアムでの学生 PJT 成果展示・フォーラム開催（2024 年夏展示）

- ↳ ✓ 兵庫津ミュージアムにて学生プロジェクトの企画展示
 - ✓ 企画展示期間中に、学生ナビゲーターとして来館者へ展示の説明などに対応
 - ✓ 兵庫津ミュージアムの来場者へ体験して頂ける“兵庫の魅力”体験コーナーを企画実施
 - ✓ 学生フォーラム（プロジェクト報告会）を企画実施

(検討事項) 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会との連携協定

以上

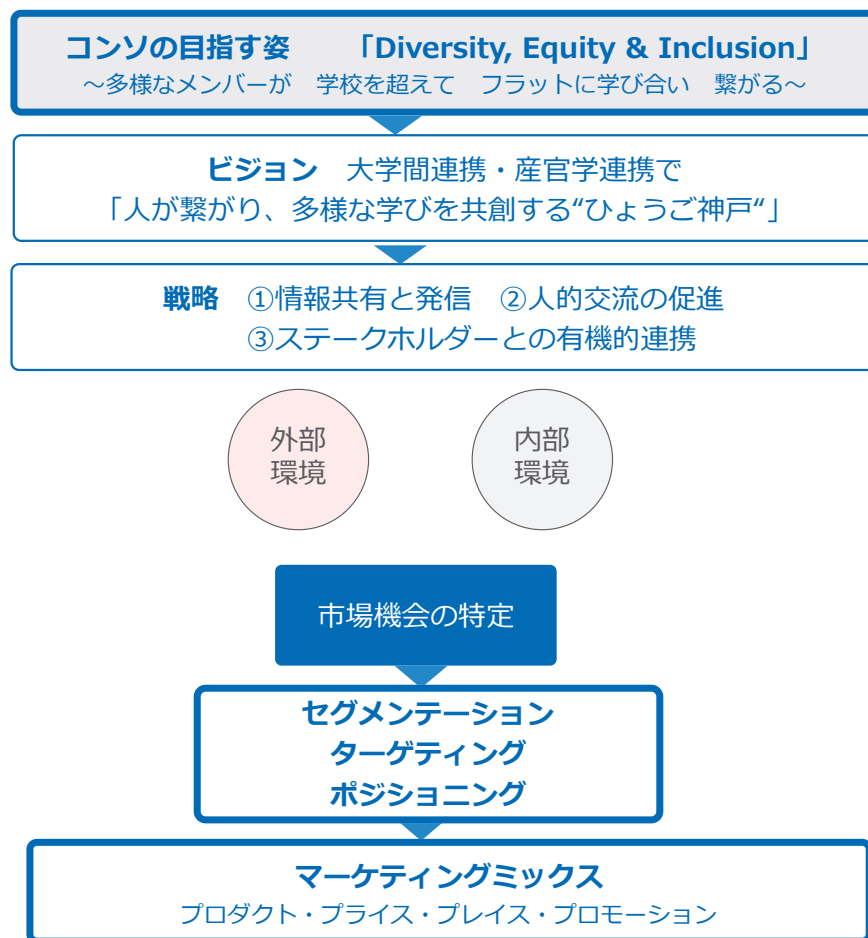
■ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型地域プログラム（参考例）

エリア	プログラム名	事業者名称	住所
摂津	尼崎運河クルーズツアー	（一社）あまがさき観光局	兵庫県尼崎市開明町 2 丁目 1 - 1
摂津	「日本一の里山」を巡るウォーキング・ツアー	特定非営利活動法人 北摂里山文化保存会	兵庫県宝塚市雲雀丘山手2丁目15番28-601号
播磨	新発見！デザイナーtamaki niimeによる播州織のものづくり体験	有限会社玉木新雌	兵庫県西脇市比延町 5 5 0 - 1
播磨	さあ多可の森へ、こころと身体がよるこぶウェルネス体験	多可町役場	兵庫県多可郡多可町中区中村町 1 2 3 番地
播磨	香色癒(こしきゆ)健康ツアー		
播磨	龍野に息継ぐ、醸造体験および蔵見学ツアー	発酵LabCoo	兵庫県たつの市龍野町下川原 2 2 - 2
但馬	環境学習「コウノトリ野生復帰と自然環境」	兵庫県立コウノトリの郷公園	兵庫県豊岡市祥雲寺 1 2 8
但馬	にっこり体験（収穫体験+農業体験）	Veggie de +	兵庫県豊岡市出石町日野辺 ソト112
丹波	「日本六古窯」丹波焼の里を訪ねる	丹波立杭陶磁器協同組合	兵庫県丹波篠山市今田町上立杭 3
丹波	Good Experience！兵庫丹波	丹波サイクリング協会	丹波市柏原町母坪335-1 コモレ丹波の森内
淡路	慶野松原 ー来て・見て・学んで・楽しもうー	淡路島・慶野松原根上がり隊	南あわじ市
淡路	南あわじ市の日本農業遺産を未来につなげよう	サザンバード	南あわじ市
淡路	香りに愛された島、淡路島	兵庫県線香協同組合	兵庫県淡路市郡家 6 2 1 番地

大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について

～コンソの認知・イメージアップ施策検討用「加盟校教職員へのアンケート調査」に向けて～

7月企画運営委員会



2022年度
策定

2023年度
策定

中長期計画Ⅱ期（柱4）

「加盟校が活性化する大学間連携組織
としての運営体制の構築」

【アンケート目的】

教職員・学生・地域社会のステークホルダー等に対するコンソの認知度向上、イメージのアップのための事業設計、広報活動等に生かすため

【アンケート活用】

- 現状把握することで今後の効果的な情報発信施策に活用
- 理想ターゲット層を増やす施策の立案

※ターゲットペルソナのカスタマージャーニーは別紙参照（お手隙時にお目通し下さい）

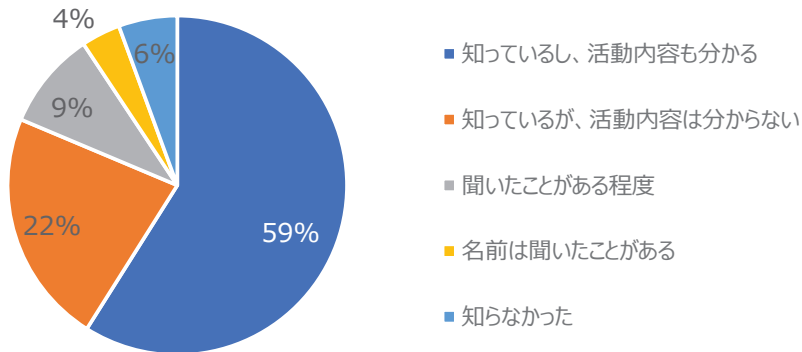


【成果】※短期目標は10月末

- 市場機会を特定し、（神戸PF等との）差別化
- ステークホルダーにおけるコンソの認知・理解・関与を高める

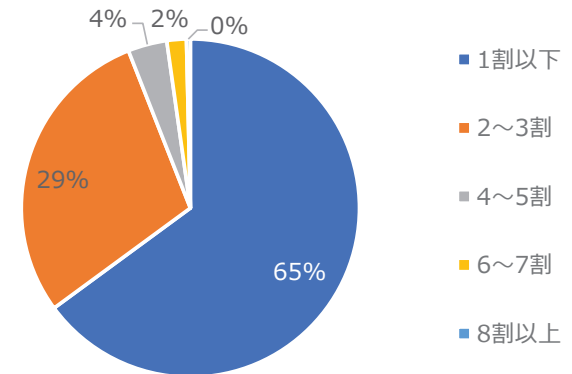
※実行・モニタリングでPDCA回す

教職員における大学コンソーシアムひょうご神戸の認知



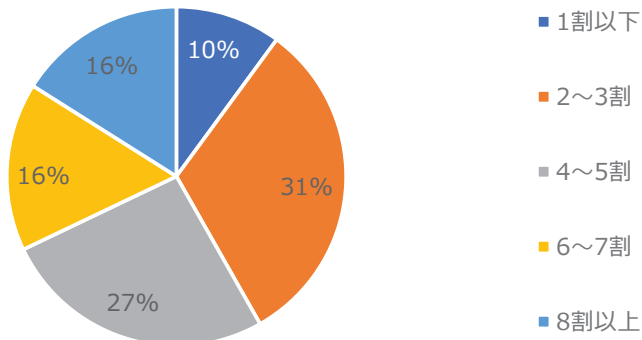
- 職員・教員におけるコンソ認知は81%、理解度は59%。想定より認知されている状況。
- 特に一般職員の課長以下には、一定の認知があると言える（合計38%）
また教授も合計17%認知されており、“知っている人は知っている”状態。

自大学の「学生」の何割が、コンソを認知していると思うか？



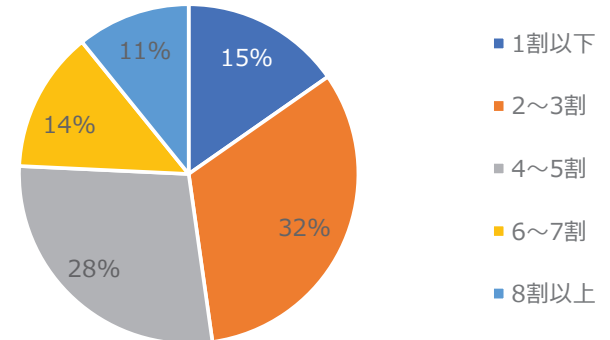
- 過半数となる65%の人が「1割以下」と回答。
自学の学生には10%も知られていないと認識されている。

自大学の「職員」の何割が、コンソを認知していると思うか？



- 最も多いのが「2～3割」と回答（32%）。次いで、「4～5割」と回答（26%）。
多くはないが、一定数の職員が知っていると感じている。

自大学の「教員」の何割が、コンソを認知していると思うか？



- 最も多いのが「2～3割」と回答（32%）。次いで、「4～5割」と回答（28%）。
多くはないが一定数の教員が知っていると感じている。

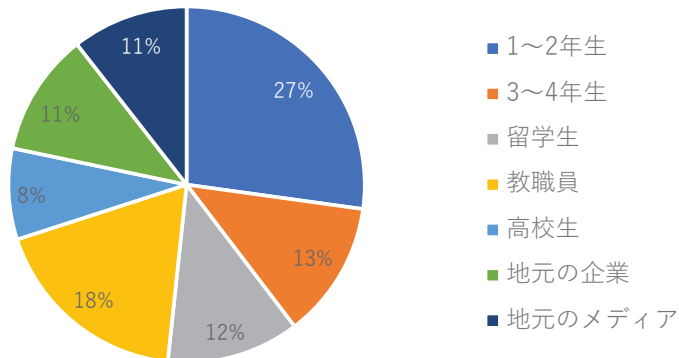
アンケート結果まとめ②

コンソの強み・特長と思うもの

加盟大学数	121	13%
加盟大学の合計学生数	48	5%
留学生ネットワーク	57	6%
留学生支援の実績	62	7%
キャリア支援の実績	41	4%
大学間の交流	178	19%
イベントの企画力	63	7%
地元企業とのつながりが深い	71	8%
産学連携の実績	77	8%
高大連携の実績	32	4%
FD・SDの実績	42	5%
加盟大学の教授や学生、OBOGの活用	25	3%
加盟大学とつながりある企業やスポーツチームなどの活用	28	3%
官公庁とのつながり	68	7%

913

コンソの認知アップのため、どの層をターゲットにすべきか



- 「1～2年生」を優先すべきとの声が多い。「3～4年生」向けを挙げる声は限定的。
- 「総合大学の教職員」を挙げる声が多く、いかに総合大学との交流を広げるか、リソース活用ができるかが1つの鍵と言える。

コンソのイベントの告知などは、どこで行われているか

学生向けホームページ	92	15%
留学生向けホームページ	22	4%
一般公開している大学のホームページ	79	13%
学生向けにメール送信	86	14%
留学生向けにメール送信	29	5%
学内の掲示板	161	27%
キャリア支援センター内の掲示板	35	6%
大学の公式SNS	26	4%
授業内で告知	15	3%
その他	55	9%

600

アンケートのまとめ

課題① 認知

教職員には一定認知があるが、加盟校学生の認知は10%未満。
⇒**学生の認知と利用促進を高めるべき！**

課題② 理解

・「大学間の交流」「加盟工数」が強みと認識されているが、他は強みとしての認識が弱い。具体的なメリットベースでない。
・「加盟大学の教授や学生、OBOGの活用」「加盟大学とつながりある企業やスポーツチームなどの活用」等を活用できていない
⇒**強みをより活用し、効果的・効率的なアピールをすべき**

課題③ ターゲット

対象学生は、1～2年生ないし高校生向けに行うべき
⇒**ニッチターゲットではなく早期学生からの取込みを狙うべき**

課題④ 伝え方

コンソの取組の告知は、掲示板や学内向け／一般向けホームページが主となっており、“それ以外にない”感がある。
⇒**SNSなど、学生にもっと伝わるチャネル活用を！**

加盟校の課題

- どの大学も共通するのは、入学者の確保、資金調達が主。
- 中小規模の大学に追加で共通して入るのは、認知やブランディングが低い、事務スタッフ不足。
- どの大学も喫緊の課題を抱えており、なんとかやりくりしている現状が見られる。

コンソ参画のメリット

- メリットとして共通するのは、学生の交流（他大学の学生やナレッジ等）
スタッフ目線では、職員同士の横のつながりや、研修などによる知識の補完が挙げられた。
- 私立の中小規模大学は、補助金採択のメリットも挙げられていた。
- 挙げられたメリットは教科書的なものが多く、実感値のある効果、課題解決につながるものかという意味では補助金の件を除くと、あまりないのが実情と言える。

コンソへの理想

- 全体的に、コンソへの理想像、希望はあまり挙げられなかった。
- 声としては、職員研修などスタッフ不足の解決が多く、中長期のゴールというより身近な課題解決であった。
- メリットの平等性や、大学同士がライバルでもあることから、大きく利活用できる組織という認識されてない。「明確なメリット」の成功事例を作り、増やし、認識を変えることが重要。

<加盟校のメリットにつながるコンソの役割>

≡コンソのプレゼンス向上につながる取組みの方向性

1. PR・プロモーション

…各大学の認知度の向上・PR強化が入学生の確保や外部資金の調達に繋がること。

- ①学生によるSNSアカウント運用 ②共同開講

2. 学内業務の効率化

…若手職員に対して研修や、ナレッジの共有や機会提供、緊急時対応など

- ①FD・SDの共通化 ②共同調達 ③大学で働く契約職員の人材紹介

3. 外部資金の調達

…補助金や企業等から外部資金を獲得すること

- ①補助金・助成金サポート



アンケートでも必要性は
示されていたもの



新たに必要性として
検討すべきこと



<補足>

「学生同士の交流」「学生の学びの幅を広げる」ことは、一定できている、ベースとしてある認識。＝事業として最低限の位置づけに近い。ここを担保した上で、出資者である加盟校が実感値としてのメリットを感じる必要がある。